

# 人権同和教育調査研究等委員会

## 一 テーマ

世の中のあらゆる人権課題を自分事として捉え、主体的に解決する意欲と実践力を養うために、人権同和教育をどのように進めていったらよいか。

## 二 テーマ設定の理由

本委員会ではこれまでも上記のテーマで研究を積んできている。昨年度の研究から見えてきたものは以下の2点である。

- ・各校の児童生徒の実態や地域の歴史的背景を生かした人権同和教育の授業構想が望ましい。
- ・指導者が人権問題に関する十分な知識や経験をもち、目的意識を明確にして授業を行うことが望ましい。

そこで本会では、上記テーマに沿った授業を各委員が構想・実践し、その内容を諸先生方に共有することで、各学校の人権同和教育推進の参考にしていただきたいと考え、研究テーマを設定した。

## 三 研究の経過

- 第1回 5月2日(木) 活動計画、研究テーマの検討、実証授業者決定
- 第2回 7月12日(金) 委員各校の実践共有
- 第3回 8月30日(金) 各委員の授業実践共有
- 第4回 11月22日(金) 研究授業の参観①「ふゆめがっしょうだん」(学級活動)
- 第5回 11月25日(月) 「研究のまとめ」推進計画
- 第6回 12月3日(火) 研究授業の参観②「ちがうっていいこと？」(学級活動)
- 第7回 12月20日(金) 「研究のまとめ」内容検討
- 第8回 1月28日(火) 研究発表会

## 四 研究の内容

|       |                |                       |
|-------|----------------|-----------------------|
| 〔実践1〕 | 北小学校1年         | 「ふゆめがっしょうだん」(学級活動)    |
| 〔実践2〕 | 塩田西小学校4年       | 「ちがうっていいこと？」(学級活動)    |
| 〔実践3〕 | 神科小学校1、4、6年    | 「つながりタイム・プログラム」(特別活動) |
| 〔実践4〕 | 長門小学校4年        | 「お楽しみ会でみんなスマイル」(特別活動) |
| 〔実践5〕 | 依田窪南部中学校1、2、3年 | 「人権同和教育月間」(特別活動等)     |

以下、委員による実践事例を紹介する。

## 1 上田市立北小学校の授業実践

### (1) 題材名

第1学年 読書会「ふゆめがっしょうだん」(学級活動)

### (2) 本題材を選んだ理由

答えの無い問いを目の前にした時に、自分と異なる意見の友がいることに違和感をもった児童がいた。例えば、教師が「このなかで『ふわふわ』の写真はどれだと思う?」という問いを投げかけた際の出来事である。少数派の意見に対し、否定的な発言をする児童が複数人いた。

そこで、本時では、複数の写真の中から気に入るものを選んだ児童が、同じ写真であっても注目するところが違ったり、付けた名前が違ったりするなど、多くの「ちがい」を感じ取れる授業を目指した。そして、他者と関わることや違いを認め合うことのよさを感じてほしいと願い、本題材を設定した。

### (3) 主眼

生き物の顔のようにみえる冬芽が登場する本を読んだ子どもたちが、自分のお気に入りのふゆめを見つけて友に紹介する場面で、友の考えや思いを聞き合うことを通して、似た意見や新たな見方があることを知り、自分なりの思いの良さを再認識したり他者の見方との違いに気がついたりすることができる。

### 【内容項目(2)イ よりよい人間関係の形成】

### (4) 展開

| 段階                             | 学習活動             | 予想される児童の反応   | ◇教師の指導・援助 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>   | 時間  | 備考 |
|--------------------------------|------------------|--|--|-----|----|
| 導入                             | 1 本文を読み、内容を把握する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なにこれ?</li> <li>・サルに見える。</li> <li>・顔があって、なんだか生き物みたい。</li> <li>・このふゆめが面白くて好きだな。</li> <li>・私もみんなに自分のお気に入りのふゆめを知ってもらいたいな。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◇写真を廊下に掲示し、興味関心を高める。(事前)</li> <li>◇本文「ふゆめがっしょうだん」を読む。</li> <li>◇児童に一番気に入ったふゆめを聞き、自分も気に入ったふゆめを伝えたいという気持ちを高める。</li> </ul> | 10分 | 絵本 |
| いちばんお気に入りのふゆめさんを見つけて、みんなに紹介しよう |                  |  |  |     |    |

|        |                                      |   |  |     |                       |   |
|--------|--------------------------------------|---|--|-----|-----------------------|---|
| 展<br>開 | 2 紹介の仕方を確認し、見通しをもつ。                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・気に入ったふゆめはいるけど、いきなりは話せないかもしれないな。</li> <li>・自分のお気に入りのふゆめを紹介するのに、紙に書きたいな。</li> <li>・自分だったらこのふゆめは、頭の形が面白いから、そこを名前に入れてみるかな。</li> <li>・そうやって名前をつければいいのか。</li> </ul>   | ◇気に入ったふゆめ紹介の見通しをもたせるために、戸惑っている児童の声を拾いながら、発表の仕方を確認したりふゆめの名づけ遊びをしたりする。   | 5分  | 写<br>真<br>カ<br>ー<br>ド |   |
|        | 3 最も気に入ったふゆめに名前をつけ、その理由をワークシートに書き込む。 | <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">ふゆめさんに名前をつけて、みんなに紹介しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは頭の上が赤くなっているふゆめが好きだったな。</li> <li>・いっぱい重なっているふゆめもあったな。</li> <li>・腕をパーっと伸ばしているみたいに見える。</li> <li>・お祈りしているみたいに見える。</li> <li>・さるみたいな見た目のふゆめもいたな。</li> <li>・わたしは○番のふゆめにしようかな。顔の形がハートみたいでかわいいな。</li> <li>・○番のふゆめが、笑ったカバに見えて面白いな。名前はかばおくんにするかな。にこにこくんでもいいかもしれないぞ。</li> <li>・鬼みたいなふゆめがかっこいい感じがして好きだな。</li> </ul> | ◇ワークシートを書き終わった児童は、付箋に名前を書き、黒板に貼りに行くよう促す。<br>◇机間指導をしながら、肯定の声掛けやリアクションをしつつ、学習が停滞する児童にヒントになるような声掛けを本人にも周囲にもしていく。<br>◇早く書き終わった児童は2番目に気に入ったふゆめにも名前をつけるよう促す。 | 15分 |                       | 本<br>時<br>の<br>ワ<br>ー<br>ク<br>シ<br>ー<br>ト |
|        | 4 友の意見を聞き、新たな考えやその理由を知る。             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・○番のふゆめに、にこにこくんという名前をつけたよ。</li> <li>・同じ○番を選んだけど、鼻のところがチューリップみたいだから、選んだよ。名前はちゅーりっぷくんにしたよ。</li> </ul>  | ◇全体共有の場で、同じふゆめでも多くの名前が付いたことや、注目したところが違うこと、自分とは違うふゆめでも思いがあって選んだことに気づけるよう、理由を問いながら、ふゆめの名前を取り上げる。   | 10分 |                       |   |

|    |   |  |                                  |    |
|----|---|--|----------------------------------|----|
| 終末 | 5 発表し合ったことをふまえて他者の意見と自分の意見の共通点や相違点に気づく。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・おなじふゆめを選んだけど、名前が違って面白かった。</li> <li>・同じふゆめを選んでも、いいと思ったところが違うこともあった。</li> <li>・ほかのふゆめを選んだ人の話をきいたら、そのふゆめも素敵だなって思った。</li> <li>・自分のつけた名前が「すてき」って言われて、うれしかった。</li> <li>・ふゆめさんに名前をつけられてよかった。</li> </ul> | ◇友の意見を聞いて、気づいたことや思ったことを発表するよう促す。 | 5分 |
|    |   | 似た意見や新たな見方があることを知り、自分なりの思いの良さを再認識したり他者の見方との違いに気がついたりすることができている(ワークシート、発言)  |                                  |    |

富成忠夫、茂木透 写真 長新太 文『ふゆめがっしょうだん』福音館書店 1986年

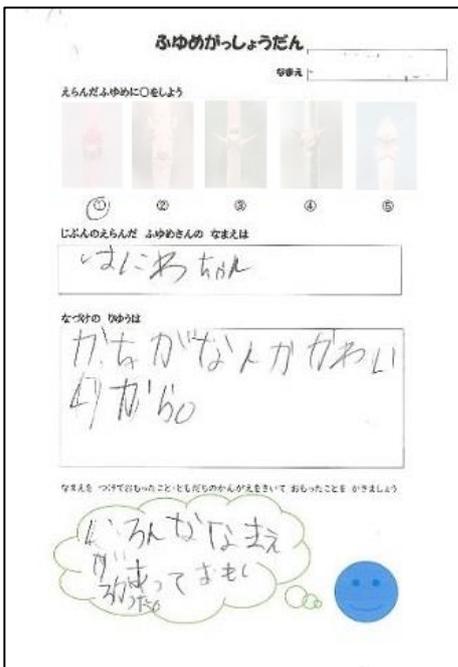


写真1 ワークシートへ記入された児童の意見



写真2 友の考えを共有する様子

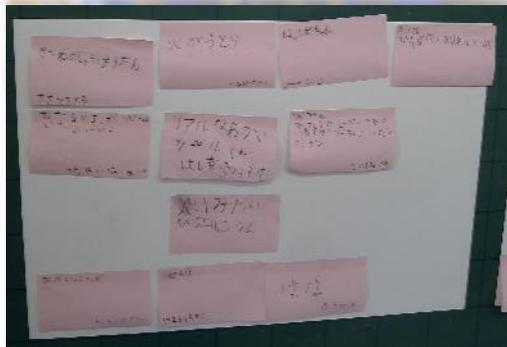


写真3 黒板に貼られた付箋

## (5) 成果と課題

### 〔成果〕

- ・違いはいけないことだと言っていた児童が、本時のまとめでは、「みんなそれぞれでいろんなかんがえですごいです」とまとめることができた。
- ・事前に写真を掲示し、興味を高めるクイズを出したことで、ワクワク感や「やってみたい」という気持ちが自然に児童から出てきた。
- ・付箋を貼る活動を行ったことで、友が付けた名前やその理由に興味を持つことにつながった。
- ・名前をつけることで、自分の選んだふゆめに愛着がわき、本当に大切にしている姿があった。
- ・写真の枚数をこちらで限定することで、選択が苦手な児童にとっても授業参加がしやすかったのではないかと考える。
- ・本時以降の児童は、例えば、孤立しないように友へ優しい声がけをする姿が見られるなど、互いを認め合う雰囲気が見られた。

### 〔課題〕

- ・付箋で貼り出すことで、友の目に触れたとはいえ、思いを語り合う時間が十分でなかったため、他者と関わるよさや違いを認め合うよさを深めることができなかった。グループ隊形になっていたので、班の中で紹介し合うなどすれば、一人一人の思いを語る場となり、ねらいに沿うことができた。
- ・言葉の持つ響きの面白さに引っ張られるあまり、名付けの理由に児童の意識を向けることが難しかった。名づけに至った友の思いや思考に目が向くようにできればよかった。
- ・終末の感想では、「面白かった」というまとめが多かった。1年生は語彙がまだ少ないので、「面白い」の一言に様々な思いが凝縮されている。「音が面白かった」「同じ名前になったのが面白かった」「いろんな名前があることが面白かった」など、同じ「面白い」でも、その面白さの背景が違うので、問い返しをしながら深めていく必要があった。

## 2 上田市立塩田西小学校の授業実践

### (1) 題材名

第4学年 「ちがうっていいこと？」(学級活動)

### (2) 本題材を選んだ理由

4年生になり、新しく同じクラスになった友とも関係を築こうとする姿が見られるようになってきた。お互いの気持ちや考えを共有する中で親密性が強くなる一方、自分との違いに気づき始め、排他性も高まってきている様子がうかがえる。また、自分の考えに自信のなさを感じる児童も見られるようになってきた。

題材の内容は「宝島の探検に連れて行きたい動物を選ぶ。」というもの。それぞれの特徴をもとに動物を選んだ児童たちが、互いに発表し合う中で、友との考えの違いを互いに受け入れ、また、自分の考えに自信を持つことができるようになってほしいと願い、本題材を設定した。

### (3) 主眼

動物の特徴を知った子どもたちが、自分が連れていく動物を選び、理由を伝えあう場面で、カードを使って考えを発表することを通して、自分と友がちがうことに着目していることに気づき、自分の考えも他者の考えも大切であるという意識ができる。

(4) 展開

|                              |   |   |
|------------------------------|---|---|
| 5分<br>はじめ                    | 1 本日の学習の流れを確認する。<br>宝島の地図を見せ、状況を想像させる。  | <p style="text-align: center;">UD化3観点</p> <p>【具体的・視覚的・肯定的】</p> <p>【具体的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに理由を書き、地図とイラストを見ながら考えが伝えられるようにする。</li> </ul> <p>【視覚的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物がわかるように提示をする。(拡大)</li> <li>・自分がいいなど思った考えに印をつける。(シール)</li> </ul> <p>【肯定的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の考えを否定するのではなく、自分の考えとの違いを認め合えるようにする。</li> </ul> |
| なか<br>か<br>〔<br>3<br>3<br>分〕 | <p>【追究の流れ(学習活動)】個人・グループ・全体→めりはりを意識</p> <p>【学習課題】</p> <p>自分が宝さがしの旅をするために必要な仲間を選びましょう。</p> <p>①宝島でのルールを確認する ②仲間にできる動物を知る<br/>③仲間にするときのルールを確認する</p> <p>2 自分の考えのまとめグとループ発表</p> <p>①仲間を3匹選び、選んだ理由をまとめる。(個人)</p> <p>②選んだ動物をワークシート(動物のイラストと地図)を見せ合いながら発表し合う。(グループ)</p> <p>③友の考えでいいなと思ったところに印をつける。(グループ)</p> <p>3 全体で考えを見合う</p> <p>グループで発表したときに友の考えでよかったところ、いいなと思ったところ参考になったところなど発表する。(拡大イラストで掲示する)</p> |   |
| おわり<br>〔<br>7<br>分〕          | <p>【まとめ・ふりかえり】</p> <p>4 自分の連れていく3匹を決定する。<br/>友の考えを参考にして最終決定をする。</p> <p>5 本日の振り返りを書く<br/>友の考えを聞いてよかったところ、参考になったことなどを書く。</p>  |   |



写真1 ワークシートへ記入された児童の意見



写真2 電子黒板やホワイトボードを用いて、全体共有を行う様子

参考資料  
国語 3 下巻 あおぞら 光村図書 「たから島のぼうけん」の地図  
「子どもの人権 九匹九色〜ちがうっていいこと?わるいこと?」

宝島へ行こう

|   |   |  |  |
|---|---|--|--|
|  <p>遠くの音が聞こえる<br/>心配しよう</p> <p>しんぱいしよーたがす<br/>うしろをみたら、ふんろうで<br/>かきまわらう。</p>                |  <p>たから島の地図</p> |  | <p>泳ぎが得意<br/>マイペース</p>   |
|  <p>足が速い<br/>落ち着きがない</p>   |   |  | <p>力持ち<br/>気が強い</p>  |
|  <p>すきまに入れる<br/>わがまま</p>   |   |  | <p>空を飛べる<br/>計画性がない</p> <p>けいかくせいがない<br/>自分と考へたら、いかに<br/>どうしようか考へてみる</p> <p>もしもかきまわらう<br/>かきまわらう。</p>        |
|  <p>鼻がきく<br/>話をきかない</p> <p>あなをきかして、あな<br/>をよんでみる。</p> <p>あなにかものかおちていたら<br/>あなのおりかきまわらう</p> |   |  |  <p>地面にもぐれる<br/>周りを気にする</p> |

写真3 ワークシートの全体

(5) 成果と課題

〔成果〕

グループで考えを発表する時間とワークシートにしろしをつける時間があったことで、友の考えをより深く見ることができた。友がつけたしろしを見ることで、自分の考えを受け入れてもらえたことを認識したり、友の考えを受け止め自分の考えに反映したりしている姿もあった。

また、導入で設定や約束をおさえたことで活動に前のめりになっている姿が見られた。動物の紹介ではすぐに特徴に目が向き、児童は思い思いに考えている様子であった。選んだ理由を考える場面では、動物の短所を生かす考えだったり、動物同士で役割を補い合ったりする考えが見られた。

〔課題〕

授業では、設定や決まりを押さえることに時間を費やしてしまい、全体共有の時間が短くなってしまった。グループでの活動を経て、他のグループやクラス全体での共有の場を設けたい。

〔研究協議で頂いたご意見〕

- ・選んだ動物ごとに発表することで、友の考えの違いに触れやすくなるのではないかな。
- ・個人で決めた動物を、グループで更に決め直す活動を行うことで合意形成の場が生まれ、他者意識が深まる活動になったのではないかな。
- ・導入でより詳しく宝島の地図に触れて考えることでさらに必要感がでるかもしれない。
- ・導入の説明を物語のようにして短くおさえ、全体共有の時間を多く確保したらどうか。
- ・動物を選ぶ際、特徴（長所・短所）のみに制限せず、見た目も含めて選ぶようにしてもよかった。

### 3 上田市立神科小学校の実践

#### (1) 題材名

第1、4、6学年 「つながりタイム・プログラム」(特別活動)

#### (2) 本題材を選んだ理由

これまでの学術研究から、学級が児童の居場所になるかどうかは児童同士の人間関係に起因することが明らかにされている。しかし、児童の学級における居場所づくりの具体的な手立てや取り組みは、十分に明確になっていない。そこで、学術研究や学習指導要領を根拠に、児童同士のコミュニケーションの質と量を高めながら、友と関わるための価値・スキル・態度を育む「つながりタイム・プログラム」に着目した。児童の発達段階に応じた学習内容の再検討と実践に取り組み、明日も行きたい教室の実現を目指すため、本題材を設定した。

#### (3) 実践方法

- ・週に1回、学級活動の時間に「つながりタイム・プログラム(ロング)」に取り組む。
- ・また、朝の会や帰りの会などに「つながりタイム・プログラム(ショート)」に取り組む。
- ・実践の前に、学級の実態や発達段階に応じたプログラム内容の検討を行う。

### つながりタイム・プログラム 内容・目的一覧

|    | ショート・プログラム(10分)  | ロング・プログラム(45分)   |
|----|--|--|
| 1  | 後出しじゃんけん…ジャンケンを通して、教師と良好な関係になるきっかけをつくる   |  |
| 2  | スタンドアップ4…人間関係をつくる基本やつながるイメージをもたせる  |  |
| 3  | よろちク!…人間関係に大切なのは尊敬の心であり、挨拶は尊敬の気持ちを示すものであることを学ぶ                                       |  |
| 4  | グルーピングゲーム…自分に当てはまる条件のグループを探しながら、できるだけ多くの人と話をする。                                      | 言葉のチカラ…よい感情を持たせる言葉とわるい感情を持たせる言葉があることを知り、前者を使って生活していこうとする意欲を高める。                        |
| 5  | チェーンワーク…出された条件によって整列する活動を通して、多くの人と話し相手を知る。   | 言ってもらいたい言葉…よい感情をもたらす言葉をお互いにかけてあげることによって、それらのよさを知り、それらを使っていこうとする意欲を知る。                  |
| 6  | ハッピーレター…あたたかな言葉をかけてもらう喜びを感じることで、自分も他者にあたたかな言葉をかけていこうとする意欲を高めるとともに、あたたかな言葉をかける技術を高める。 | つながる聴き方…よい聞き方の技術を知るとともに、よい聞き方をするとよい人間関係ができることに気づく。                                     |
| 7  | ホメホメクラブ…よいところを見つけてもらう楽しさを味わうことを通じて、相手のよさを見つける喜びに気づかせる。                               | つながる話し方・責めない態度…攻撃的になったり、また主張しなかったりしても問題は解決しないことに気づき、人の感情を傷つけないようにして自分の気持ちを伝えるよさや技術を知る。 |
| 8  | カツサンドジャンケン<br>…ジャンケンゲームを楽しみながら、全員で目的を達成する喜びを知る。                                      | 協力の敵・協力の味方…協力するために不必要なことを必要なことを考える活動を通して、協りに大切な技術や態度に気づくことができる。                        |
| 9  | テレパシー握手<br>…ゲームを通して、言葉に頼らない(ノンバーバル)コミュニケーションの楽しさを知る。                                 | 人間コピー…情報を伝え、それを絵にする活動を通して、協力することのよさや気づき、協力するためのスキルを学ぶ。                                 |
| 10 | 電気ビュンゲーム<br>…握手による信号を送るゲームを通して、全員で協力する楽しさを味わう。                                       | ペーパータワー…班でできるだけ高い紙のタワーをつくる活動を通して、協力することのよさや目的達成のための互いの貢献に気づく。                          |

|    |  |   |
|----|--|---|
| 11 | E.T. (いい友だち)<br>…人差し指でペンなどを挟んで高く上げるゲームを通して、協力する楽しさを知る。 | 勇気の出る解決方法…友の困りごとの事例を通して、学級みんなで問題を解決する技術を学ぶ。                     |
| 12 | みんなで正解しよう<br>…全員でクイズに答える活動を通して、情報をできるだけ早く伝える技術を身につける。  | 輪になってハッピーナイスサンキュー…肯定的な感情を出し合うことで、互いの長所や貢献に気づき、他者や集団に対する肯定感を高める。 |

表1 上越教育大学赤坂研究室における「学校支援プロジェクト」参照

(4) 実践の様子



写真1・2 ロング・プログラム「ことばの力」「言ってもらいたい言葉」の板書



写真3 ロング・プログラム「つながる話し方・せめない態度」の板書

(5) 成果と課題

〔成果〕

学級生活満足度の上昇が見られている。学級満足度は、承認と被侵害の二軸から算出されるものであり、その得点は児童同士の間関係のあり方を表している。したがって、児童同士の間関係が良好であると学級満足度は上昇する。それは「居場所づくり」が機能している証拠と考えられる。

本研究から、児童同士がつながる学級を構成するためには、教師の力量は当然のことながら、それだけでなく、児童同士の望ましいかかわりを日常的に設けることや、継続的に人権同和教育を実施すること自体が大切であると考えられる。

〔課題〕

今後は、どの学級においても学級生活満足度に重きを置いた取り組みへ展開していきたい。また、年間 35 時間の特別活動の中の学級活動（この時間には給食指導や行事は含まれないことになっている）を児童同士が良好な人間関係を構築するための時間とすることで、学力向上にもつながると考えられる。

## 4 長和町立長門小学校の実践

### (1) 題材名

第4学年 「お楽しみ会でみんなスマイル」(特別活動)

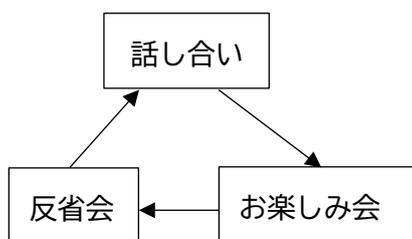
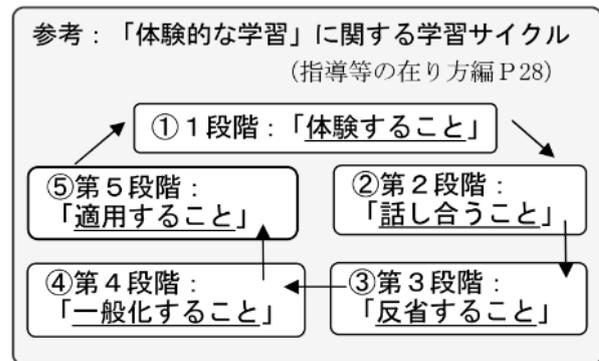
### (2) 実践を行った経緯

本学級の児童の実態として、他者意識が持てずに言い合いやもめ事に発展してしまうことがこれまでにあった。自分の考えを優先してしまい、友に強い口調で接してしまう姿も見られた。これまで学級で行ってきたお楽しみ会では、トラブルが起こり、児童の感想にも「けんかが起こるから、お楽しみ会はやりたくない。」などの意見があった。

そこで、児童によりよい人間関係を育んでほしいと願い、本実践を行った。お楽しみ会が本当に楽しかったという体験をしたり、なぜ楽しい活動になったのかを振り返ったりする活動を通して、自分の大切さと共に他の人の大切さを認め、人権が尊重される集団をつくることを目標に取り組んだ。

### (3) 実践方法

長野県教育委員会発行の人権教育指導資料集によると、体験的な学習を行う際、児童たちが個々に「①体験すること」をはじめりとして、友と「②話し合うこと」、振り返りの時間に「③反省すること」、学校生活や家庭生活などの現実世界と結びつけて「④一般化すること」を経て、普段の自分の行動や態度に「⑤適用すること」ができるとされている。それに慣い、下記のようなサイクルで実践を行った。



「話し合い」、「お楽しみ会」、「反省会」のサイクルを繰り返し行うことで、活動がよりよいものとして発展していくことを児童が実感し、よりよい人間関係の構築に繋がると考えた。

### (4) 実践内容

〔7月下旬〕お楽しみ会  
児童が提案した複数のゲーム(プールで水遊び、ハンカチ落とし、いす取りゲーム)を行った。

○反省会で話し合ったこと

- ① これまでのお楽しみ会とのちがいはどんなところか。
- ② けんかが起きなかったのはなぜだろう。
- ③ みんなが笑顔でいられるためには、友とどのように関わるとよいか。



〔課題〕

- ・今後も継続的に人権同和教育を行い、学級集団の一人一人が認められ、互いに人権を尊重し合う関係の構築を目指していきたい。
- ・2学期末にQUを実施したが、本稿の納期の都合により、その結果を受けての考察ができていない。結果が届き次第、春に行った結果と比較し、本実践の成果と課題をより深く追究していきたい。

5 上田市長和町中学校組合立依田窪南部中学校の実践

(1) 実践名

第1、2、3学年 「人権同和教育月間」(特別活動等)

(2) 実践内容

- ①人権アンケートの実施と分析
- ②目標、標語づくり
- ③人権同和講演
- ④各クラスの授業

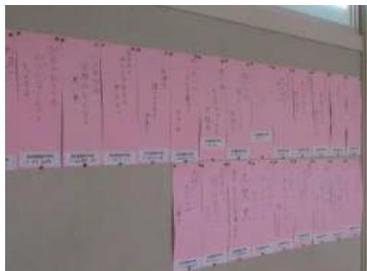


写真1 人権標語の掲示



写真2 手話の学習

1 学年—男女共同参画、ユニバーサルデザイン、高齢者疑似体験、手話、認知症

| 月 日   | 題材名                     | 実践内容                                   |
|-------|-------------------------|--|
| 10/15 | 男女共同参画                  | 相撲の土俵にあがる女性に対する協会アナウンスから、男女平等について考えた。  |
| 10/23 | バリアフリー・手話<br>ユニバーサルデザイン | あけぼのの「気づきの町」を活用し、人権問題全般やバリアフリーについて考えた。 |
| 10/24 | 高齢者・車いす体験               | 福祉協議会の方の支援を受け、実際に体験学習を行った。             |
| 11/6  | 認知症                     | NHKの動画を視聴して、認知症について理解を深めた。             |

2 学年—部落差別(室町から江戸時代、差別戒名、ケガレとキヨメ)

| 月 日   | 題材名                | 実践内容   |
|-------|--------------------|--|
| 10/15 | 現在も続く差別<br>ケガレとキヨメ | 現在も続く差別について、具体的な事例から考えた。                         |
| 10/23 | 室町時代から<br>江戸時代     | 差別が続いた理由を歴史を知ること学んだ。                             |
| 11/1  | ある精肉店のはなし          | 動画視聴を通して職業や稼業への差別や、その仕事の必要さ、働いている人たちの懸命さについて考えた。 |
| 11/6  | 人権作文               | 日々生活する中での、人権に関わる自分の考えや意見を作文にまとめた。                |

### 3学年一部落差別（近代から現代、結婚差別 人権講演会：解放こども会の活動）

| 月 日   | 題材名            | 実践内容                                       |
|-------|----------------|--|
| 10/8  | 明治後の<br>部落解放運動 | 2年生後期の「部落差別」の復習と水平社宣言について                  |
| 10/15 | 結婚相手の条件        | 結婚の条件カードを選んだり、<br>被差別部落出身者に対しての結婚差別を知ったりする |
| 10/17 | ドキュメンタリー<br>結婚 | 実話から、現在の差別の実態を知る。<br>相手に出身を告げる思いを考える       |
| 10/23 | 寝た子を起こすな       | 「寝た子を起こすな」では<br>差別解決にならない理由を考える            |
| 11/6  | 人権同和講演会        | 武石地区解放子ども会の研修活動の話聞いて学ぶ                     |

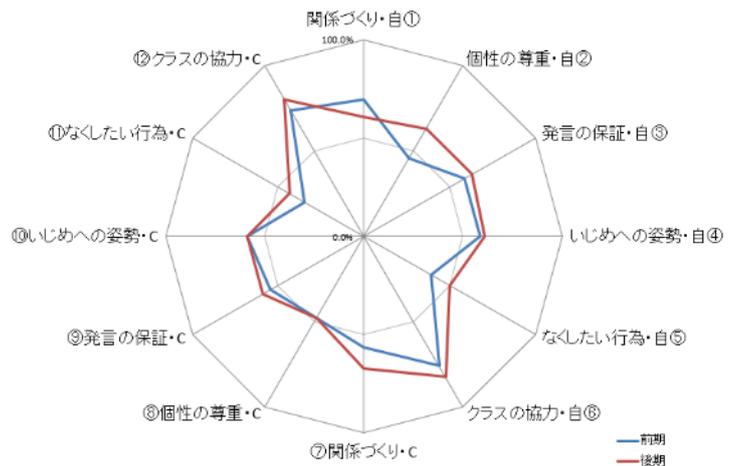
### (3) 実践の紹介

#### ①人権アンケート結果の活用方法

年2回の人権アンケートを行う。年度当初に取った人権アンケート結果をグラフ化し、クラスの特徴を捉える。人権同和教育に関する学習を行い、年度終わりに改めて人権アンケートを取り、どの程度改善が見られたかを振り返る。

左図のグラフを見ると、前期が青色、後期が赤色を表しており、生徒の人権感覚が高まっていることが伺える。

生徒は、この結果を見て、クラスの実態を把握し、話し合い、よりよい集団を目指している。



#### ②授業の様子

##### 〔職業差別〕

「ケガレ」や「キヨメ」の意識から職業に関する差別が生まれたことを学習した。また、現在もある就職に関する差別事象、その起こりや差別をされた背景をDVDを見て考え合った。

##### ○生徒たちの感想

- ・イメージにとらわれて差別をしてきたことがわかってよかったし、自分はイメージにとらわれずしっかりと判断していけるようになりたいです。
- ・ある職業に就いた人たちを特別視し、差別するのはおかしいと思った。
- ・自分たちが生きるために必要なことをしてくれた人に差別の目を向けてしまうのは悲しいと思った。

- ・現代にもそういう差別が残っていることにびっくりした。
- ・昔からの差別がまだ消えずに残っているんだなと感じた。
- ・偏見をもって差別をする人がまだたくさんいるんだなと思った。差別があったことを伝えていくのは、今後差別をなくすためにも必要なことだと思った。

〔寝た子を起こすな〕

「寝た子を起こすな」の資料を扱い、知らないで済めば差別をすることもなく、自然に差別はなくなっていくという考えでは、差別は解消されないのはなぜなのか、県の「人権に関する県民意識調査」も参考にしながら、差別解消に向けて考えを深めた。

#### ○生徒たちの感想

- ・最初は「寝た子を起こすな」派だったけれど、やはり差別について学ぶことで差別への理解・意識を高めることがとても重要だと思った。みんなが正しく知ること、もっと差別がなくせるといいなと思った。
- ・私は「寝た子を起こすな」という意見は一見、賛成できるかなと思いますが、よく考えたら違うかなと思いました。もし部落差別のことをしっかり学習せずに過ごし、被差別部落の人に出会ったらひどい差別をするかもしれません。そのようにならないようにしっかりこのことを学習し、理不尽な差別をなくしていかなければいけないと思いました。
- ・(結婚相手に出身を) 伝えるか伝えないか、自分は最初は伝えなくてもいいと思ったけれど、今回の学習で伝えてもらう方がいいかなと思いました。自分が知ったとしても、気持ちは変わらないが、相手からしたらそれを一生抱えてずっと悩んで不安な気持ちでいると思います。結婚するということは、相手のことも自分のことも理解して、一人で頑張っていくのではなく、一緒に一生寄り添って乗り越えていくことだと学びました。
- ・部落差別の問題を「なかったこと」にしてはいけない。被差別部落の人に対する正しい知識をつけることが、この差別をなくすために必要なことだと思った。他人事と考えないで、自分にも関係する問題として、自分たちの考えを貫き通すことが大切だと思った。人に流されず、自分の意見を大切にしたい。被差別部落出身の人に会うことがあったら、対等に接していきたい。

## 五 研究のまとめと課題

〔第三次とりまとめ〕では、学校教育における人権教育の目標を次のように示している。

児童生徒がその発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにする。

この目標を達成するために必要とされる資質・能力は、①知識的側面、②価値的・態度的側面、③技能的側面の3つと考えられている。これらを一度に身につけることは難しく、発達段階に応じた教育を行っていく必要があると考えられる。

本年度の委員の実践から、人権同和教育を進める上で重要だと考えることがいくつか見えてきた。

まず、一つ目は、教師自身が正しい人権感覚を持ち、授業をする力量を高めるということだ。本研究を進めていく中で、私たちは実践経験を積み、委員同士で話し合い、児童・生徒の姿から教師自身が学ぶことができた。教える側が、正しい知識と力量をもち、目的意識をもって授業を行うことが重要だと考える。

二つ目は、継続的・計画的・教科及び様々な活動場面で横断的に人権同和教育を実践していくということだ。実践3～5に示した通り、児童・生徒の根底にある意識が変化したり、それが行動に現れたりすることは容易ではないため、長期的で計画的な教育プログラムを考えていく必要があると考える。

三つ目は、児童・生徒同士が深く関わり合う時間をより多くもてるようにすることだ。実践1・2では、児童・生徒が自分の意見を持つための時間は多くとれたが、一方で、互いの意見のよさを認め合ったり、全体で共有したりする場面に時間を割くことができなかった。限られた授業時間の中で、知識を教えることは最低限重要だが、更に深い人権感覚を養うためには、児童・生徒同士が協力しつつ共働して学習を進める時間に比重を置くことが重要だと考える。

本年度は、各委員の授業を参観したり、互いの実践を共有したりする機会を多く取ることができた。委員同士が意見を出し合い実践を振り返る機会を設けたことは、自身の授業改善や委員会としての研究のためにも有用だったと考える。その中で見えてきた課題として、児童・生徒の人権的な力の成長を可視化することの難しさが挙げられる。研究の中で紹介したように、アンケートの結果からある程度の変化を可視化することができた。当然、ワークシート等の記述内容からも児童・生徒の変容を推察することはできる。一方で、人権同和教育は、生涯にわたり時間をかけて培っていく素養でもあるため、より経年的な視点での成長を追う必要があると考えている。